

## 第56回大会開催にあたって

### Knowledge, Heart and Humanity ～知と愛と人と～



この度、日本医療検査科学会第56回大会大会長を拝命致しました。令和6年10月4日(金)から6日(日)の3日間、パシフィコ横浜にて開催させていただきます。伝統ある本大会が盛会となりますように微力に鞭打ち精一杯努力する所存でございます。大会長として一言ご挨拶を申し上げます。

最初に大会開催にあたり、学会員の皆さま、JACLaSの皆さま、懇切丁寧にご指導を賜りました学会役員の皆さま、精力的に開催準備に奔走してくださいました学会事務局の石川真弓様、佐久間良太様、学術広告社の田原完次様、そして多大なるご支援を賜りました皆さまに心からお礼申し上げます。お陰様で第56回大会も特別講演／教育講演／中国からの招待講演／シンポジウム／モーニングセミナー／技術セミナー／機器・試薬セミナー／ランチョンセミナー／サテライトセミナー／RCPC／論文賞受賞講演／優秀演題賞講演／JACLaS International Award 受賞講演／JACLaS Award I・II受賞講演と盛沢山の企画となりました。

今回のテーマを「Knowledge, Heart and Humanity ～知と愛と人と～」としました。日常臨床の基盤を支えている今日の医療検査の背景には産・官・学にわたる様々な分野の先達の努力の積み重ねがあります。30年前に今のIT技術の進歩を予測した人はいなかったであろうことと同程度に医療検査も格段の進歩を遂げてきました。そして、新型コロナウイルス感染症のパンデミック下において医療検査の重要性は益々強調されることとなりました。今大切なこととして、我々は先進国の一つとして世界中の人々の幸せを願い、知を結集して情報を共有し国内外に発信することであると思います。第56回大会のポスターのテーマの黄色の文字はウクライナの国花である向日葵をイメージしております。

また、サブテーマとして「地域医療を支援する医療検査」「超高齢社会に向けた医療検査の役割」「医療DX～検査室の未来～」「COVID-19パンデミックから得た教訓と備えるべきこと」「医療検査の国際化～先進国日本への期待～」を掲げています。これらに共通することは「思いやりの精神」であり「学び」が次世代に繋がるような大会にしたいと考えております。

特別講演では熊本大学の松下修三先生に「感染症新時代」のタイトルでお願いしました。感染症対策における臨床検査の重要性に議論の余地はありませんが、グローバルな視点からは途上国をはじめとして十分な検査体制が敷かれているとは言えません。HIV感染症を通して世界の現実の中から臨床検査へのグローバルな視点を涵養していただきたいと思います。

教育講演1では鹿児島大学の大石 充先生に「高齢化社会への心構え：フレイルを背景とした心不全」のタイトルでお願いしました。超高齢社会に対峙する医療人として持つべき意識の一つとして「フレイル」をキーワードとして考え、近未来に急増するのは心筋梗塞ではなく「フレイルを基盤とした心不全である」といった「疾病構造の変化を見据えた医療人」の育成の一助になることを期待しています。

教育講演2では鹿児島大学の宇都由美子先生に「電子カルテの未来像」のタイトルでお願いしました。医療DXが進められる中で、我々医療人はsociety5.0に向けてICTの利活用について明確な目的意識を持ち、医療提供サービスの付加価値を柔軟かつ大胆に変革していくことの羅針盤を示していただけるとと思います。

第56回大会がこれからの医療検査を皆さまとともに発展させ、豊かな社会、成熟した社会作りへの一助となることを願って大会長の挨拶と致します。

一般社団法人日本医療検査科学会第56回大会大会長  
橋口 照人